

「いわての復興教育推進事業（いわての復興教育スクール〈沿岸〉）」成果報告書

学校名：岩手県立宮古北高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

田老地区の復興工事も終盤となる中、震災を鮮明に記憶する生徒の数は少なくなり、生徒の会話から震災の話を聞くことはなくなった。震災の記憶の風化と次の時代の担い手となる若者の人口減少が大きな問題となってきている。

田老地区は、明治三陸大津波、昭和三陸大津波など過去に大きな被害を受けながらも町を再興してきた。津波防災の観点から生徒への防災教育は必要である。

1年生の「総合的な探究の時間」に地域学（田老学）を実施し、防災・歴史・文化・産業について3年間をかけて地域の特性を知るとともに地域の課題に向き合い、その課題の解決に向けて探究する。このことにより、地域への関心の目を向け、次の時代の担い手育成へとつなげていきたい。

今年度は、津波防災とその歴史について学ぶ。

II 取組の概要**1 探究活動事前学習**

宮古北高校の1学年には30名の生徒が在籍している。地域の課題を生徒自らが発見できるようになるためには、まず地域の現状を知らなければならない。地元の中学校出身の生徒であっても、案外、行ったことのない施設や遺構が多くあり、あるいは知っていると言っても日常生活で見ているだけで、その成立の経緯などの細かい事情については理解していないことが多くあるように見受けられる。5月10日（金）6時間目、現地視察の前に1学年担当の職員による事前学習を行った。日程と視察する施設の内容について説明を受けた後、見学のポイントについて、生徒たちがそれぞれ想定して話し合いを持った。これにより、生徒が自分たちの課題として、より身近に物事をとらえられるように、気持ちの準備を整えることができた。

**2 田老地区等現地視察（5月20日）****（1）メモリアルパーク中の浜**

東日本大震災の被災前は海と森林に囲まれたキャンプ場だった。被災後に嵩上げ工事と説明板がおかれて、現在は津波被害を伝える施設となっている。生徒たちは、津波被害の状況について班ごとに説明板を見て回り、メモを取った。

**（2）学ぶ防災**

宮古観光文化交流協会の学ぶ防災ガイドの佐々木純子さんから津波防災と津波の恐ろしさについて講義を受けた。以下、佐々木氏の案内で町内を移動した。

**①避難道体験**

田老町で昔から使われてきた赤沼山の避難道を実際に歩くことで、お年寄りや子どもが急勾配を登って避難することの難しさを身をもって体験した。避難道のより良い整備や高台への避難の工夫について、意識を高めることができた。



②大海嘯記念碑

過去の津波の状況と歴史を知り、津波と共に生きてその度に復興してきた町の人々の姿に想いをはせた。



③防潮堤

田老防潮堤の歴史と役割を知ると共に、防潮堤が絶対的なものではないことも学んだ。



④三王岩

三陸の海の豊かさの象徴である。風光明媚な場所だが、ひとたび津波となったときの被害がすさまじい地形であることを体感した。



⑤たろう観光ホテル（津波遺構）

津波で破壊されたホテルを見学し、実際に津波を体験した話や映像を見ることで、生徒は防災に対する意識を高めることができた。



(3) 探究活動事後学習

① グループ毎に探究活動の成果をまとめる。

お互いに相談して役割分担をし、模造紙に書き込んで写真を貼り、必要に応じて図解するなど工夫して作成できた。

② 全校集会で各グループが成果を発表した。



③ 文化祭で展示発表をおこなった。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

これまで田老地区は、繰り返し津波の被害を受けながらも、津波に負けないまちづくりに取り組んできた。

東日本大震災で再び町全体が壊滅的な被害を受けたが、復興に向けて町の再建に取り組むと同時に津波防災を進めていることを学び、津波の恐ろしさを忘れないことの大切さを実感した。

今回、自分たちで調べまとめたことを発表して、全校で共有するという経験をさせることができた。生徒のプレゼンする力を伸ばすことができた。

防災について学び、地元の魅力を知ること、高校生として今何ができるのか、また将来どのように社会に貢献してゆくのか、生徒に考えさせることができた。

※5月21日(火)の岩手日報に記事が掲載された。

2 課題

今回の事業で、生徒には机上の知識だけでなく実際にフィールドを歩き回ることによって肌身に感じさせて、視野を広げる良い体験をさせることができた。しかしながら、それが生徒の発信力の伸長につながったとは、まだ言いがたい状況である。

将来は、全国、世界に情報を発信するように意欲を高め、また町の象徴を津波だけにせず、産業や物流などを発達させ、町そのものの魅力や価値を高めようと思考する生徒に育ってほしい。

今後も「いわての復興教育推進事業」の本校での継続をお願いしたい。